

1 中学部の学部研究について

(1) 目的

- ①授業づくりの充実を目指し、授業実践を中心にした研究を行う。
- ②学部研究会を通し、各作業班や学部内における「育成を目指す資質・能力の明確化」及び「指導と評価の一体化」について共通理解を深める。

(2) 研究テーマ

『中学部段階で付けたい力 ～作業学習を通して～』

中学部目標

社会生活に必要な知識・態度を育成し、高等部進学などに向け、働くことを意識した生活へのスムーズな移行に向けて支援する。

- (1) 明るく素直で心と身体が健康な生徒
- (2) 友達と協力して意欲的に活動する生徒
- (3) 自分の役割や仕事を精一杯頑張る生徒

この2年間の研究を通して、現行の学習指導要領の基本方針に上げられている「育成を目指す資質・能力の明確化」を『中学部段階で付けたい力』と捉え、学部目標に基づいた授業づくり、授業実践、授業改善に迫るため、今研究では作業学習に焦点を絞って研究を深めることとした。

(3) 研究内容・方法

①授業提案

- 10月 9日(水) 木工班「製品販売会に向けて製品を作ろう」 授業者：松田麻耶 他3名
- 11月13日(水) 陶芸班「製品販売会に向けてお皿を作ろう」 授業者：柳村さやか 他3名
- 11月25日(月) 生産班「製品販売会に向けて」 授業者：藤尾拓輝 他5名

②学部研究会

1年次は、作業班ごとにグループワークを行い、中学部段階で育てたい資質・能力について確認する。また、そのために作業を通してできる学習活動や支援について明らかにすることとした。

授業実践や評価等について検討しながら、授業づくりや観点別評価など日々の授業改善につなげる。

2 学部研究会のまとめ

10月17日(木)、12月23日(月)の2回実施。

(1) 協議内容(グループ協議)

①各作業班で『中学部段階で付けたい力』は何か。どのように捉えているか。

②力を付けるため、あるいは伸ばすために作業を通してできること。

○木工班

	①中学部段階で付けたい力	②作業を通してできること
現在行っている活動・ 授業内容	・身だしなみ ・挨拶、返事、報告 ・時間いっぱい取り組む	・身だしなみ点検、衣服の調節、置く場所の確認 ・その都度。回数多め。 ・担当を固定せず色々な工程に取り組めるようにしている。
課題	・技術(技能)の定着がしにくい。 ・作業工程が分かっていない。 →担当を固定していないため。	・ホワイトボード以外に工程表を貼る。 ・事前学習(単元1)完成までのビデオを見る。
今後の方向性や これからの取組	・自分の作業内容に見通しをもって取り組む。 ・返事、報告 ・時間いっぱい	・生徒が一人で作業に取り組めるような環境整備や教材準備

○生産班

	①中学部段階で付けたい力	②作業を通してできること
現在行っている活動・ 授業内容	・自己評価 (できた、できなかった、むずかしかったなど具体的な振り返り) ・他者評価を受け入れる ・準備や片付けなど生徒達が自主的に行う。	・日誌を活用した評価の充実 ・生徒が自主的に行えるような教材教具や手立ての工夫
課題	・体力不足 ・一定時間集中して作業を続ける力	・立ち仕事を取り入れる (実態や体調等に応じて) ・活動時間の明確化(見通し)
今後の方向性や これからの取組	・畑作業等を通じた体力の向上 ・仲間と協力して作業を進める。	・作業量の調整(実態や体調等に応じて) ・生徒同士が協力する場面づくり (声掛け、コミュニケーションが取れる場の設定)

○陶芸班

	①中学部段階で付けたい力	②作業を通してできること
現在行っている活動・ 授業内容	・目標の明確化 ・自己評価の充実	・日誌を活用した評価の充実 (記述での自己評価)
課題	・協力して取り組む ・連携	・他グループとの関わり
今後の方向性や これからの取組	・やりがい ・主体性 (自分の仕事を理解して進める)	・販売戦略を考える。 ・作業内容の流れに沿った物の配置 ・動線を整える。

○リサイクル班

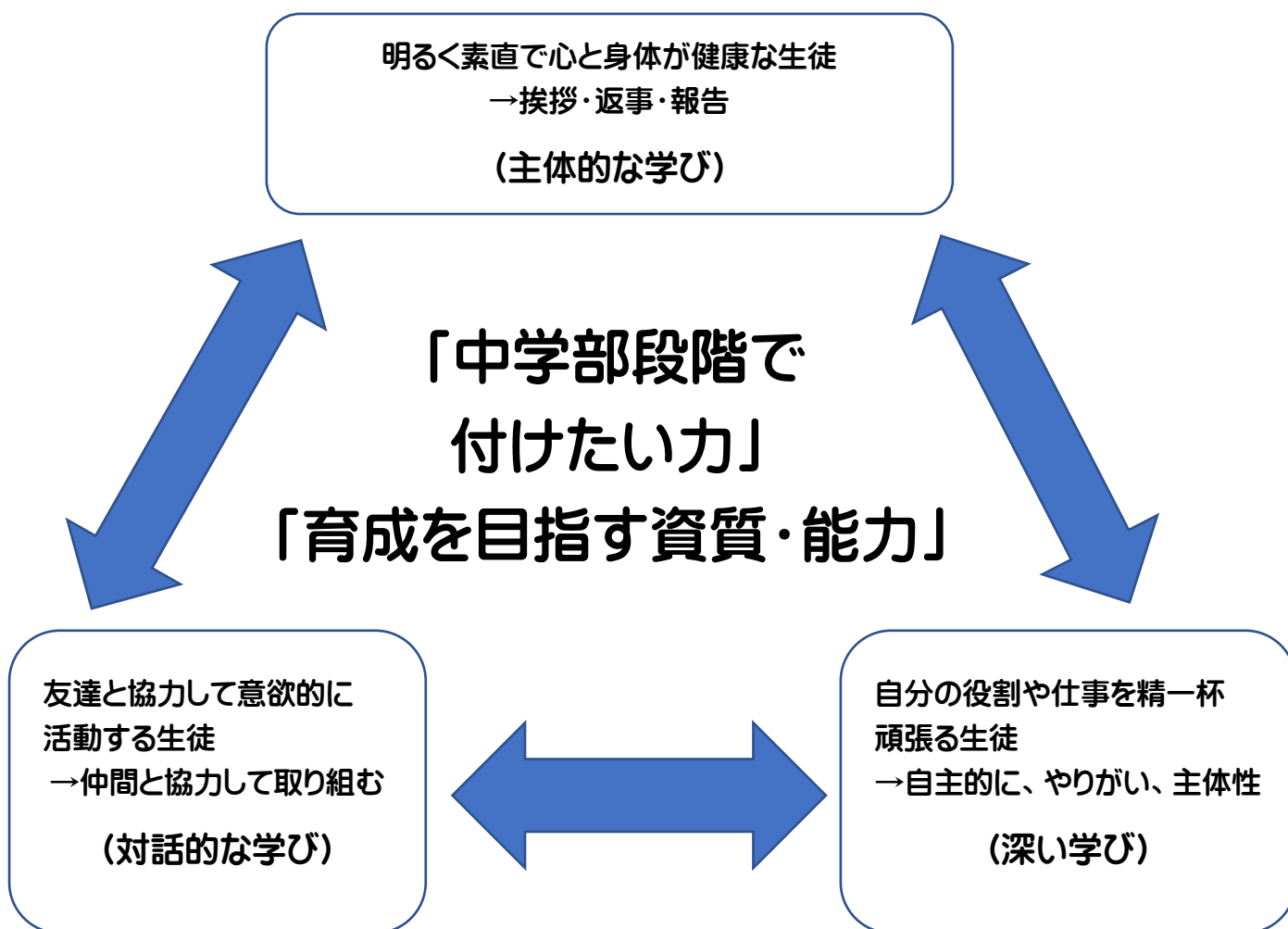
	①中学部段階で付けたい力	②作業を通してできること
現在行っている活動・ 授業内容	・作業の目的が分かる	・雪あかりにむけて、ろうそくを 2,000 個製作
課題	・挨拶、返事、報告 (生徒・職員間だけでなく、生徒間同士のやりとり)	・生徒同士の活動や関わりをもてる場の設定
今後の方向性や これからの取組	・自主的に報告やあいさつを行う。	・実態に応じた取り組み (カードを所定の場所に入れる) (タブレットの活用) (目標を決め、自分で結果を記入)

(2) 結果

令和6年度『中学部段階で付けたい力』まとめ

	共通事項	各作業班で身に付けられる力
木工班	① 挨拶、返事、報告 ② 仲間と協力して取り組む (流れ作業、一緒に、 生徒間同士関わり) ③ 自主的に、やりがい、主体性	・安全を意識した作業技術の向上 (正確さ、工程の見通し)
生産班		・体力の向上 ・多種多様な作業内容 ・販売活動を多く設定
陶芸班		・完成までの作業工程を見通す力
リサイクル班		・目的を明確にして作業に取り組む力 (年間 2,000 個のろうそくを製作) ・持続力

○授業づくりのポイント



3 1年次の成果と課題

成果	・各作業班でグループ協議を行ったことで、作業内容や課題の見直しなど、日々の授業改善に繋げることができた。 ・グループ協議で出された項目に共通事項があることが分かり、作業学習を通して、中学部段階で身に付けたい力（資質・能力）を見つけることができた。学部目標に準拠していることも発見！ ・その作業班だからこそ身に付けられる力も明確になった。 ・日誌の様式変更により、自己評価や職員からの評価など振り返りの充実に繋げることができた。
課題	・中学部段階で付けたい力を各作業班で意識しながら、生徒の実態把握や目標設定（一人ひとりに育成したい資質・能力）を行う。また、日々の授業づくりに繋げる。 →育てたい資質・能力に準拠した単元目標に応じた指導計画 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、意図的・計画的に組織し、弾力的な見直しを図りながら展開する。 ・自己評価、他者評価の充実。個人目標に繋げる。 →指導と評価の一体化を意識した授業づくり 評価を次の授業に生かす。（PDCA サイクル） ・効果的な指導方法の工夫。 →マクロな視点とミクロの視点の往還 学習集団全体⇔児童生徒個々 年間指導計画⇔個別の指導計画 各教科等の学習の中だけでなく、大人になって生活するときにも働かせることができる力。生徒の将来に繋がることを意識した授業づくり。 ・観点別評価の視点を深める。 →各教科等において育成を目指す資質・能力を明らかにする。 合わせた指導（作業学習）が効果的である根拠を示す。